



ほめることによって、かなえられること

園長 間嶋 哲

ある日、年少組のA君が、遊んだ後の片付けをしていました。

彼は、ゴミを6つ手に持ち、ゴミ箱へ直行していました。私が無気なく「すごいねえ。立派」と声をかけると、もう一度ゴミを探しに出掛け、ゴミを1つ持ってきました。「ありがとう」という言葉を発すると、また、ゴミを見つけてきて捨ててくれます。この行動が、どんどん続いたので。それも、ただゴミを単純に拾って捨てるのではなく、常に走って行動しています。素晴らしいことです。私は、この行動を見ていて、あらためて「人間は誰だって褒められれば嬉しいのだ」という気持ちと、人をやる気にさせるためには、結局褒めることしかないのではないかと考えるようになりました。

私事ですが、愚息が小さい頃、同じようなことがありました。八畳間の和室の真ん中にはテーブルがあります。テーブルのまわりを、なぜか走り始めたのです。はじめは、「気分でもいいのかなあ」くらいにしか思っていませんでしたが、しばらく続いたので「すごいねえ」と言ったら、どんどん回り続けます。やる気に満ちて何かをし始めたら、基本的には見守ってやらせておくことが大切です。そのまま走り続け、何と200周してしまいました。翌日…筋肉痛になった彼は、園を休まざるをえませんでした。

途中でやめさせればよかったのかなと思いつつ、「極限に挑戦する」「やりたいただけさせてみる」という体験も、たまにはあってもよいのではないかと考えています。「やってみたい」→「無我夢中で挑戦する」→「何らかの成果を得る」というサイクルの中に、「ほめられる」が加わることによって、「やったぞお」という充実感がより強くなります。そのことが続くと、確固たる自己肯定感が育まれるような気がしています。

さて、ご家庭では、子どもを本気になってほめていますか。

先月紹介した山本五十六の言葉にも、ほめる大切さや任せる大切さが謳われていました。

「まだ、小さいから無理かなあ」と思ったことでも、一度思い切って任せてみませんか。きっと、多少の失敗をしたとしても、それ自体が良い経験になるはずです。小さな失敗体験も、長い人生には必要ですし、失敗することによって自分で気付くことがあるはずです。

